

2023 沢便り1 シーズン初めの実践渡渉訓練

葛野川・小金沢本谷 (2023/6/24)

L : N山、S口、T野、N野、D山、T山、T美、H口

駅のホーム、10分前には余裕で着くなと思って電車を待っていると携帯が鳴った。D山さんからだ。遅れるのかな。

「今どこですか？ 集合時間6時でみんな待ってますよ。」

「えっ・・・?!」そんなはずはない。集合時間は6時半のはず。

電車に乗り込みメールを確認すると中央道の渋滞を考慮して集合を30分早めていたのだ。僕もそのメールに対し「了解です」なんて返事までしているじゃないか。窓外に流れる景色がぼやけて見えた。

新宿駅に着くやホームを走り出す。階段だけは1段抜かしはせず慎重に下り、また走り出す。T野車が見えるとMさんが両手を広げ腰を落として立ちはだかっていた。「乗せないよお。」

平謝りの出発となってしまった。

中央道の渋滞はそこそこ。大月から北上し、ふかしろ湖畔の小金沢公園に着いたのは8時過ぎ。全体の集合時間8時半には十分間に合い事無きを得たのであった。

今日はお水系の沢が大好きなゴンちゃんとグッチが講師となって指導してくれる渡渉訓練である。例年なら丹波川辺りで何度も渡渉を繰り返す訓練だが、今回は逆行を通して実践的な訓練をやってみようということでここ小金沢本谷を選んでくれた。小金沢本谷は長い流域に釜や淵を伴った関東屈指の名溪だそうだ。

8:45、出発。トンネルのゲートを越えて林道を歩き出す。大月と小菅村の間にあたる葛野川流域は山深く、沢は林道のはるか下を流れている。ゆるい上りが延々と続き1時間15分ほど歩いた所から下降することにした。

ハーネス、スパッツを取り付け準備ができた者からルンゼを下って60m下の河原へ下りる。

水に浸かる場面が多いのでネオプレンの上下にライフジャケットを付けているメンバーもいる。僕も久しぶりにネオプレンの長パンを履いてみた。どうも体脂肪率の高そうな人ほど厚着仕様になっているようで、Mさんは玉ネギのように何枚も着込み動きづらいと言っていた。

10:25、入溪。のっけから腰上の深さの淵歩きとなる。手に触れる水は冷たいがネオプレンの長パンは功を奏し体に寒さを感じない。

深場から岸へと上がるが、着込み過ぎたMさんは足が上がりず早くもN野さんの助けが必要となった。

前方右岸に二段から成る高い滝が見えてきた。その上には林道の橋が架かっている。大樺沢出合である。

歩きやすいゴルジュが続いている。さすが名溪と言われるだけあって溪相は良く、その中をヘルメット集団が列をなして歩いて行くのはなかなか絵になる眺めだ。



早い流れを渡る時にはスクラム渡渉をするなど訓練も入れていく。T野さん、N野さんの間に挟まれたMさんはさながら囚われた宇宙人のようで自らケラケラ笑っていた。

入溪から50分ほど、左岸が開けた所で一本入れた。
「ああ、もう疲れた。ねえねえ、ここどの辺り？」とMさんが聞き
「お茶ノ水ノ滝のちょっと手前」とゴンちゃんが答えると
「じゃあ秋葉原の辺りかね」とすかさずT野さんがボケをかます。いやいやどうにも楽しい仲間たちなのだ。

再び歩き出すと太い丸太を抱えた10mはある滝が現われた。お茶ノ水ノ滝である。釜の手前には深い淵がある。

「フローティングロープ出そうか」とグッチがザックを下ろした。
ロープを引きながらグッチが淵を泳ぎ出し、左岸の壁をへつるように進んで岸に上がった。張られたロープをたよりに次々と続いて行く。途中、しばらく足が付かないがロープを手繰って難なく越えられた。



お茶ノ水ノ滝は取り付かず左岸を巻いて行く。斜面が立ち足元が崩れやすそうなので団子になって続く。上部のいやらしそうな斜めトラバースではゴンちゃんがロープを出しサポートしてくれた。

尾根からはバンド状に付けられた踏み跡を辿って行くが、沢へ下りる斜面は急で滑りやすいため30mロープを垂らして下りた。

下りた先には流れの早い場所があった。T野さんが先に渡りカメラを構え、残りの7人横並びの大スクラム渡渉を試みる。キーハンターのテーマ曲を歌いながら渡って行くが右端のゴンちゃんの所だけ沢床がえぐれ、一人へそまで浸かっている。

「なんで俺だけこんな水入ってんだよ」と苦笑い。

前方が壁となり幅広4mの滝が落ちていた。すかさずゴンちゃんは釜を泳ぎ対岸へ。T野さんは釜を左から回り込んで行った。ゴンちゃんが壁に取り掛かるが、手掛かりが少ない上にハングしているらしく上がるのに時間が掛かった。上からロープが垂らされT野さんも壁に取り付くがなかなか上がるのが難しいようだ。

「T野さんでも苦戦かぁ」と声が出て、グッチ以外のメンバーは左岸の巻きを選んだ。

何人かがイワナが走るのを見たが、ここは釣り人が入る沢らしく所々にトラロープが垂らしてあった。それを使わせてもらい振子をしてへつる場所もある。

流れが狭まりトイ状となった流れの上をわざわざゴンちゃんは突っ張ったりしながら絡んで行く。他でも白泡の深場に入って行ったり、ホントお水系好きなんだなあ。N野さんが時々それに付き合っていた。

立ち上がった岩肌をなめるように左岸から70mの滝が落ちていた。その先に出て来た3mトイ状の滝は岩肌がテレテレと光っていて上れそうになく、トラロープが垂らされた左岸のリッジを上って行く。ところがゴンちゃんは釜を泳いで右岸へ渡るとテレテレした岩でも手掛かりを見つけて上がり切った。つくづく見せてくれる。

朝から曇り空であったが、辺りが夕方のように暗くなってきた。一雨来るのかしら。右岸の上方にガードレールが見えている。

「もういいんじえねえ。もういいんじゃねえ」とMさんが口に出し始めたが、不動の滝まで行ってみよう。

13:30、不動滝に到着。広い釜を伴った堂々とした8mの滝は終点にふさわしい姿で落ちていた。しばらく眺め、記念撮影タイムの後、塩地沢下手の細い沢筋から上がって行った。



(Photo T野)

林道に出て訓練終了、講師への感謝もこめてグータッチ。ハーネスを外しダラダラと歩き出す。すると30分もしないで遡行開始の下降点まで戻ってしまった。

「これだけしか歩いてないの？」といくつも声が上がったが沢が曲がりくねっているせいだろう。

林道の途中で焚火宴会に入る宿泊組と別れ、日帰り組は15時、小金井公園まで戻って来た。おかげさまで雨にもあわず帰り支度をする事ができた。

小菅の湯で汗を流し、帰りは上野原I.C.から中央道に乗った。帰りの車中も当然のように賑やか。休みの関係で僕はなかなか一緒に行けないけれど、こんなメンバーと一緒に山に行くのが楽しいんだよなあとしみじみ思うのであった。

(H口 記)